



# JSQC ニュース

No.238

発行 社団法人 日本品質管理学会  
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 (財)日本科学技術連盟東高円寺ビル内  
 電話:03(5378)1506 FAX:03(5378)1507  
 ホームページ:www.jsqc.org/

CONTENTS

- 1-トピックス「独立行政法人製品評価技術基盤機構における認定センターの発足について」
- 2-私の提言「理論と実践の融合」
- 2-ルポルタージュ 第278回関西事業所見学会
- 3-ルポルタージュ 第279回中部事業所見学会 / 6月・7月入会者紹介
- 4-公募 / 行事案内

## 独立行政法人製品評価技術基盤機構における認定センター(IA Japan)の発足について

独立行政法人製品評価技術基盤機構  
 適合性評価センター 認定センター

はじめに

独立行政法人製品評価技術基盤機構適合性評価センターにおいては、従来より運営しておりましたJCSS、JNLAに加え、平成14年4月1日付け施行改正計量法に基づくMLAPの開始やその他の認定ニーズに対応し、産学官からの公共的要請に応え、民間が十分対応できない場合にスムーズにかつ迅速に対応する体制を整えることが公的認定機関の義務であるとの考えのもとに、効率的・合理的な認定機関運営のため組織を統合・強化し、平成14年4月1日に認定センター(IA Japan: International Accreditation Japan)を発足させました。

運営体制

試験所・校正認定機関の国際基準であるISO/IECガイド58に基づき、関係法令や内部管理規定・細則の下、品質マニュアルを頂点とする文書体制を整備しています。

このうち、各認定プログラムにおける認定の一般要求事項、申請等の手引き、トレーサビリティ方針、技術的適用文書、指針文書類はホームページ等で

公表しています。特に、新規プログラム関係の公表文書については、準備が整い次第、順次公表しております。

IA Japanが運営する認定プログラムと新たな認定プログラム

現在、IA Japanが運営している認定プログラムは下表のとおりで、基本的に試験所・校正機関の認定国際基準であるISO/IEC17025に基づくものです。

このうち、新たな認定プログラムの概要についてご紹介します。

1. MLAP

改正計量法の施行により、平成14年4月1日より認定の申請を開始しました。認定区分は、①大気中のダイオキシン類の濃度の計量証明の事業、②水中又は土壌中のダイオキシン類の濃度の計量証明の事業、です。

2. ASNITE

平成14年4月1日現在、ASNITEでは4種類のサブプログラムを用意しました。

- (1) 標準物質 (RM) 生産者の認定  
 国家標準物質の供給体制整備に資するため、その生産者等についてISO/IEC Guide34:1996を利用した認定を行うものです。

- (2) 国家計量標準研究所(NMI)認定  
 国家計量標準研究所のISO/IEC 17025:1999等への適合性の評価又は認定を行います。NMI間の国際相互承認(グローバルMRA)の相互評価(peer review)に関連し、NMIの要請に対応して評価、認定を行うものです。

- (3) ASNITE校正 (JCSS、RM又はNMI以外の校正事業者認定)

例えば日本の国家標準がないため外国の国家標準等にトレーサビリティをつなぐ際に他の方法が利用できない場合、この範囲についてASNITEで校正事業者の認定を行います。

(4) ASNITE試験

- ① ASNITE試験 (JNLA以外の試験所認定)

JNLAの既認定試験事業者に対し、認定試験事業者の便宜を図りJNLAを補完する観点から、必要な試験業務に関する認定を行います。

② ASNITE試験IT

ITセキュリティ評価機関の認定を行います。ITセキュリティ評価機関の認定は、試験内容は特殊ですがASNITE試験の一部です。

各認定プログラムの認定実績について

既に認定事業者が存在する認定プログラムの平成14年7月1日現在の認定実績(認定事業者数)は次のとおりです。

表2 各認定プログラムの認定実績

認定プログラム	JCSS	JNLA	ASNITE-Test	MLAP
認定事業者数	95	75	9	5

さらに詳しい内容については独立行政法人製品評価技術基盤機構 認定センターのホームページを是非ご覧ください。

URL : <http://www.nite.go.jp/asse/iajapan/>

認定機関	認定プログラム	認定プログラムサブカテゴリ	ILAC・APLACの国際MRAの対象	認定基準	
IA Japan	MLAP (エムラップ) 計量法特定計量証明事業者認定制度		MRA対象外	関係告示	
	JCSS (ジェイシーエスエス) 計量法校正事業者認定制度		MRA対象内	ISO/IEC 17025	
	JNLA (ジェイエヌエルエー) 工業標準化法試験事業者認定制度			ISO/IEC 17025	
	ASNITE (アズナイト) 製品評価技術基盤機構認定制度	国家計量標準研究所 (NMI)			ISO/IEC 17025 (ISO/IEC Guide34)
		(JCSS、RM又はNMI以外の)校正機関			ISO/IEC 17025
		(JNLA以外の)試験所		ISO/IEC 17025	
	ITセキュリティ評価機関		ISO/IEC 17025		
	標準物質 (RM) 生産者		MRAの検討中	ISO/IEC Guide34 + ISO/IEC 17025	

## 私の提言

## 理論と実践の融合

梶山女学園大学 教授 澤田善次郎



産業界・学界・官界が、協力して社会に貢献することが強く求められている。私自身、産業界での体験を経て学界に入

ったことがあり「理論と実践」を如何に融合するかを課題に取り組んできたが十分な成果をあげ得ていないのは残念なことである。

進んだ実践、例えば JIT（トヨタ生産方式）、TQC（全員参加の品質管理）、TPM（全員参加の生産保全）や原価企画を含むコストマネジメントなどは、日本が生んだ世界に誇る

べき管理技術であった。しかし、その理論化と普遍化が不十分で成果を全世界に速く・十分効果的に普及させたかには、疑問が残っている。

正しい理論は、①進んだ実践を理論化し普遍化することと、②ビジョン（夢）を理論として示し、その“夢”を出来る限り害が少ないように実現し成果につなげる、ことを可能にする。

例えば、ディジュリスタンダード（理論）としてのISO9000、14000は制度の良し悪しはあっても、現時点ではマネジメントシステムの国際化に果たした役割は大きい。良い点を伸ばすため、ベストプラクティスを示すなどして標準化だけに止まらな

いでオンリーワン“夢”への道を拓くようにし、人類共通の財産に育て上げる必要がある。

いずれにしても、品質管理面でも実践を知った理論家、理論をベースにした実践家が重要であることに変わりはない。そのためには、産学官で働く専門家の横断的連携や横断的労働市場確立が重要である。そのためには、IT技術をフル活用し、学会活動を効率化し、大学・大学院の教育・研究を充実し、産学官の相互交流を活発化すべきである。また、チーム活動で細分化されすぎた専門性を補完したり、知的財産権を尊重し、技術者の評価・表彰制度の充実、職業紹介などの諸施策を講ずる必要がある。学会としては、狩野会長が進められている会員拡大の努力と基本的会員サービスの充実等を地道に実践しつづければならない。そうするなかで「理論と実践の融合」がはかられることを確信する。

## 第278回関西事業所見学会ルポ

## 関西電力(株) 大飯発電所

第278回事業所見学会は、2月5日に参加者19名、学会事務局1名が、関西電力の2名のご案内で福井県大飯町にある関西電力大飯発電所を訪れた。ここは現在我が国における最大級出力の原子炉を持ち、関西電力の年間発電量のおよそ26%（平成12年度実績）を発電している。

当日、8:30にJR大阪駅前を出発し、阪神高速から中国道を経て舞鶴道を北上した。途中、車内で予備知識として原子力発電の原理・仕組みと、我が国と同様資源の少ないフランスでの原子力発電事情の紹介がビデオであった。

大飯発電所での見学は、「エルパークおおい“おおいり館”」でのプレゼンテーションに次いで、4号機の方に移動し、原子炉建屋を横に見ながら燃

料取扱室、発電機を設置のタービン建屋、中央制御室の順で、見学コースを進んだ。このコースはシースルー方式になっており、随所に設置の模型や、パネルを見ながら細部まで説明を頂いた。最後に研修室で現業の方から原子力発電所としての安全管理、品質保証の説明をいただき、多岐にわたる活発な質疑応答が熱心になされ、15:20に帰路についた。

考えてみると、電力は消費者と生産者がリアルタイムに直結しており、しかも、製品の大量貯蔵は困難である。又、エネルギー資源の少ない我が国においては原子力の利用は不可欠であろう。その意味で、関西電力が生産者として安定した電力供給のため原子力施設の安全確保は言うに及ばず発電から末端の消費者までの施設について、安全と品質に並々ならぬ努力と注意を払っていることがよく理解できた。

未筆ながら、今回の見学会でお世話頂いた関西電力の皆さんにこの場を借りてお礼申し上げます。

宮武宏次（竹中工務店）

## 第279回中部 事業所見学会 ルポ

### ソニーイーエムシーエス株式会社 ーノ宮テック

さる6月7日(金)に、第279回事業所見学会が愛知県一宮市のソニーイーエムシーエス(株)ーノ宮テック(以下ソニーーノ宮テック)にて、50名を上回る参加者を集め開催された。テーマは『中国が「世界の工場」の地位を固めつつある中、日本の製造業の今後のあり方を先進企業から学ぶ』であった。

ソニーーノ宮テックは1970年に設立され、現在はテレビ、デジタルスチールカメラを主力製品として年間1800億円を売り上げている。

各生産ラインを見学させていただくと、作業効率の向上を目指したラインの短縮やスクラップ&ビルドが、日常的に実施されているのが印象的であった。多くのメーカーがテレビの生産ラインを中国等に海外移転する中

で、「国内生産で生き残る」には、「品質の良さと在庫のコントロール」がポイントのようだ。

また、単なるEMSではなくEMCS(EMS+CS)を掲げ、事業所においてもお客様からダイレクトに意見を聞く場を設け、それらを製造部門や技術部門にフィードバックする体制を整備している。この6月1日には、コールセンターがソニーーノ宮テック内に移管され、苦情・メンテナンス等のサービスの情報が、時間的・物理的に短縮されエンジニアリングに直接反映されることになった。

さらに、環境への対応についても、天然リモネン(みかんの皮汁を原料)を使用し、使用済発泡スチロールを化学変化させることなくリサイクルする施設が参加者の注目を集めた。

工場見学後の質疑応答では、シックスシグマへの取り組みを全社に定着させていくプロセスも聞くことができ、日本の製造業の今後のあり方について、多くを学ぶことができた見学会となった。

鈴木信滋(魚国総本社)

## 2002年6月・7月の入会者紹介

2002年6月資格審査、7月理事会において、下記の通り正会員136名準会員21名賛助会員1社1口公共会員1口の入会が承認されました。

.....  
(正会員136名) 古田 浩(米諾亜有限公司)  
原 志治(国立身体障害者リハビリテーションセンター) 北野 幸重(東レリサーチセンター) 大久保 英明(大久保技術事務所) 上島 章弘(アマダ) 松本 泰嘉(富士通LSIテクノロジー) 森 徹(ジャストシステム) 斎藤 秀夫(富士ゼロックス) 阿部 俊子(東京医科歯科大学) 吉川 雅修(山梨大学) 小倉 安洋(経営コンサルタント) 矢崎 敏郎(東急建設) 江田 昌美(小栗建設) 矢崎 英弘(グローバルテクノ) 松本 晃一(セントラルコンサルティング) 川原 明弘(シルバー鋼機) 和田 幸敏(アイシン・エイ・ダブリュ) 高井 勝(MTリサーチ) 吉井 修一(小野測器) 村田 幸雄(ISO審査員) 小林 健宏(ケイ・ティー・シー) 山田 末雄(泉屋工業所) 大久保 義幸(日本フィリップス) 大野 智之(日本特殊陶業) 日高 辰也(日高計量士事務所) 木下 伸治(エス・バイ・エル) 加藤 みどり(明星大学) 黒岩 學而 田口 二郎(多田建設) 西山 喜郎(玉光) 福井 正弘(経済産業省) 福田 雅樹(国産雅人(朝日大学) 氏家 真也(仙台エンジ) 斎藤 成(東京グラフィックサービス工業会) 藤本 昌志(神戸商船大学) 井上 勝夫(高信頼性部品) 芹澤 浩(MCプロダクト) 小守 孝(ソニー・ヒューマンキャピタル 横山 敏(大洋社) 岸野 安一(東芝テック) 片爪 靖彦(ISO審査員) 宮岡 義宣(宮岡) 土方 諭(アイビー) 齊藤 利春(ISO審査員) 丸山 幹雄(MNC) 高田 伸治(中部セキスイ工業) 鈴

木 尚子(日本ヒルズ・コルゲート) 阿保 銀三(東北ソフト・エンジニアリング) 藤原 喜延(日立サイエンスシステムズ) 植野 俊雄(ISU) 高橋 幸生(ナイキジャパン) 藤井 幸人(生研機構) 日高 嘉郎(コンサルティングオフィス 日高) 小林 亮(石川島播磨重工業) 長谷川 裕恭(ダイテック) 小島 剛毅(光洋エンジニアリング) 玉川 公(仙台エンジ) 七條 勝美(七條コンサルティング事務所) 長尾 光春(味泉) 三木 雅直(グローバルトレイド) 田淵 裕一(日本科学技術研修所) 永淵 武臣(アドパンスN) 竹村 憲治(ジェラロン工業) 奥山 昇(元・東芝) 大須賀 弘(大須賀技術士事務所) 小久江 良雄(高压ガス保安協会) 荻野 順昌(コーセー) 長橋 直人(いずず自動車) 古殿 晴美(昭和システムエンジニアリング) 吉田 澄夫(シーエス・リンク) 尾西 智英(アーケレイ) 竹内 桂三(アスモ) 富久 正利(広島オプト) 藤田 泰一(サン・グローバル研究所) 三村 芳郎(日之出水道機器) 笠原 浩子(丸誠) 中里 兼次 柴田 倫孝(ISO審査員) 近藤 友明(アスモ) 松浦 脩二(アイエックス・ナレッジ) 中島 知行(鋼管設備) 内田 誠(アシップ) 森田 久男(日本飛行機) 大島 栄作(アールシーエス研究所) 木野島 忠義(ノーリツ) 島川 邦幸(富士ゼロックス) 佐々木 博志(元・国際航業) 渡邊 弘(日本規格協会) 大滝 安宏(富士総合研究所) 淵上 茂弘(アテイン) 安齋 辰幸(クレスコン) 伊藤 久(山越) 田所 洋一(アリアス設計コンサルタント) 川畑 史子(国土交通省国土地理院) 伊藤 茂晴(日本ケーブル) 牧野 好延(ISO審査員) 光成 英正(折尾女子経済短期大学) 小笠原 幸造(川島織物) 寺内 敏朗(三菱工機) 大川 貢(東芝) 金澤 康慈(電算) 吉江 政英(ISO審査員) 河内 正則(四国生産性本部) 大塚 隆一(中村建設)

滝山 久雄(ダイナックス) 竹田 和弘(丸順) 岡田 泰幸(岡田経営環境事務所) 松永 好弘(ISO審査員) 浜 浩蔵(グローバル北海道) 吉田 正和(ISO審査員) 戸田 忠(JIN) 村上 博邦(NECマイクロシステム) 清水 桂(アルソア) 御船 直人(鉄道総合技術研究所) 多田 豊(多田総合会計事務所) 山下 克躬(ISO審査員) 亀井 一三(ISO審査員) 杉本 和彦(シグマコンサルタント事務所) 菅 留視子(西野田電工) 針谷 忠郎(エスイーエルシステム) 西川 昭彦(特殊金属エクセル) 伊瀬知 栄一(キング醸造) 安永 幸治(国士技術コンサルタンツ) 北村 利男(小林織ネーム) 中根 浩次(中根技術士経営研究所) 水野 二郎(アームコンサルティング) 遠山 肇(エム・エスオフィス) 竹内 康雄(NECソフト) 槌谷 祐一(ISO審査員) 岡田 泰治(ISO審査員) 鳥海 保(エージーピー) 稲田 博司(ISO審査員) 加来 幸昌(日本経営科学) 吉井 明(日本バイリーン) 小枝 英生(ISO審査員)

.....  
(準会員21名) 田巻 成友・松尾 圭祐・山田 豊・田村 直樹・斎藤 田・新野 秀・清水 健俊(東京理科大学) 山本 繁樹・安気 良平・沖田 武嗣(中央大学) 平岡 佳恵・加藤省吾・鈴木 哲史・塩飽 哲生・松川 勇樹・高橋 宏行(東京大学) 伊藤 静夫(新潟大学) 阿部 亜希子(玉川大学) 國分 史郎(明治大学) 長崎 貴之(東洋大学) 國場 幸展(武蔵工業大学) .....  
(賛助会員1社1口) 住友建機製造(谷口 博保) .....  
(公共会員1口) 旭川大学図書館(萩山 深良) .....  
正会員: 3202名 賛助会員: 194社, 221口  
準会員: 112名 公共会員: 22口

## 16AQS参加のお勧め

The 16th Asia Quality Symposium

## 第16回アジア品質シンポジウム

Sustainable Growth-Asian Quality in the 21st century

持続可能な成長 21世紀アジアの品質

November 16-16,2002 Tokyo, Japan

第16回アジア品質管理シンポジウム(16AQS)がANQ(Asian Network for Quality)への第1歩として開催されます。田口玄一氏の「田口メソッド」のチュートリアル講演・トヨタ自動車(株)による「人と技術を基盤とする自動工場」の特別講演、そして研究発表として Invited Session(9件) Oral Session(39件) Poster Session(18件)が予定されています。これらの研究発表は、数多くの発表申し込みがあった論文より厳選されたqualityの高い論文です。アジアにおけるTQM活動の実践・最新の動き・手法と理論、そしてマネジメントの質の高

さを実感できる内容です。また、SIG(Special Interest Group)としてアジアにおけるTQM専門家の各分野ごとのつながりをより緊密に図る企画を設けました。この他、高層ビル建設現場への見学・高橋朗氏(デンソー会長)よりのKeynote Address、各組織からの代表者による Opening Speechesが企画されています。一人でも多くの皆様に参加され、TQMを通してアジアの和が計られ、TQMが経済発展へ大きく寄与することを祈ってやみません。

16AQS プログラム委員会

日時: 2002年11月15日(金) 13:00~15:30 チュートリアルセッション  
16:00~18:00 openieng Session  
18:00~20:00 Welcom Banquet  
11月16日(土) 9:30~17:20 Special Lecture & Technical Session  
会場: 日本科学技術連盟東高円寺ビル 講堂  
詳細: URL <http://www.jsqc.org/ja/oshirase/gyouji.html>

## 行 事 案 内

## 第89回シンポジウム(本部)

テーマ: ISOマネジメントシステム規格の  
動向と課題

日時: 2002年9月19日(木)  
9:50~17:00

会場: 早稲田大学理工学部57号館

プログラム:

基調講演

ISOマネジメントの回顧と展望

矢野 友三郎氏

(経済産業省技術環境局)

発表(1)

ISO14001の現状と2004年改定動向

寺田 博氏(EMSジャパン)

発表(2)

OHSマネジメントの現状と規格の動向

零 文男氏

(アシスト&ベストコンサルタント事務所)

発表(3)

情報セキュリティマネジメントシステム

(ISMS)の現状と将来

高取 敏夫氏(日本情報処理開発協会)

パネル討論

参加費: 会員5000円(締切後5500円)

非会員7000円(締切後7500円)

準会員2500円 学生一般3500円

申込方法: ホームページから申し込みできます

申込締切: 2002年9月12日(木)

## 第286回事業所見学会(本部)

テーマ: 東京湾アクアライン環境への取り組み

日時: 2002年9月20日(金)

10:30~15:00

見学先: JH東京管理局東京湾アクアライン管理事務所

定員: 30名(先着順・会員優先)

参加費: 会員2500円 準会員1500円

非会員3500円 学生一般2000円

申込方法: 会員種類・氏名・勤務先・連絡先住所TEL・FAXをご記入の上、本部事務局宛にFAXまたはE-mailにてお申し込みください

## 第31回クオリティパブ(本部)

テーマ: 小売業界における顧客主導型経営への取り組み(仮題)

ゲスト: 加藤 二郎氏(日立製作所 ビジネスソリューション事業部)

日時: 2002年9月26日(木)

18:00~20:30

会場: 日本科学技術連盟

東高円寺ビル5階ラウンジ

会費: 会員3000円 非会員4000円

準会員・学生一般2000円(含軽食)

詳細はホームページをご覧ください

URL/www.jsqc.org/ja/oshirase/gyouji.html

## 第84回講演会(本部)

テーマ: 情報システムの品質とその信頼性について

日時: 2002年10月4日(金)

13:25~17:00

会場: 日本科学技術連盟

東高円寺ビル地下1階講堂

プログラム:

特別講演

システム障害はなぜ起きたか

~みずほの教訓

谷島 宣之氏(日経BP社)

講演(1)

大規模アプリケーションシステム

における品質の3要因(仮題)

関口 益昭氏(東京情報大学)

講演(2)

ソフトウェア製品の品質管理と

システム監査(仮題)

菊池 豊彦氏(東京情報大学)

募集人数: 150名

参加費: 会員4000円 準会員2000円

非会員5000円 学生一般2500円

申込方法: 同封の開催案内をご参照下さい  
ホームページから申し込みできます

申込締切: 2002年9月27日(金)

## 第32回年次大会・武蔵工業大学(東京)

通常総会/講演会/研究発表会

日時: 2002年10月26日(土)

9:30~10:30 通常総会

10:30~11:00 各賞授与式

11:15~12:00

新会長講演(高橋 朗氏)

13:00~17:30 研究発表会

17:45~19:30 懇親会

会場: 武蔵工業大学(東京)

参加費:

講演会/研究発表会

会員4000円(締切後4500円)

準会員2000円

非会員6000円(締切後6500円)

学生一般3000円

懇親会

会員・非会員4000円 学生2000円

申込方法: 同封の開催案内をご参照下さい

ホームページから申し込みできます

申込締切: 2002年10月18日(金)

## 行 事 申 込 先

本部: 166-0003 杉並区高円寺南1-2-1

(叻)日本科学技術連盟内

(社)日本品質管理学会

TEL:03-5378-1506

FAX:03-5378-1507

E-mail:apply@jsqc.org

## 教員募集

統計数理研究所教員  
公募案内

公募人員: 文部科学教官

助教授3名 助手1名

所 属:

① 予測制御研究系

予測理論研究部門 助教授1名

採用時期: 2003年1月16日~2003年3月1日

② 予測制御研究系

予測理論研究部門 助手1名

採用時期: 2002年12月1日~2003年2月1日

③ 予測制御研究系

統計計算システム研究部門

助教授1名

採用時期: 2002年12月1日~2003年2月1日

④ 調査実験解析研究系

多次元解析研究部門 助教授1名

採用時期: 2002年12月1日~2003年2月1日

応募資格:

<助教授>

1. 博士の学位を有する者または研究上の業績がこれに準ずる者

2. 研究機関または大学において助教歴があり、研究上の業績があると認められる者

3. 研究所、試験所、調査所等に5年以上在職し、研究教育上の業績があると認められる者

<助手>

博士の学位を有する者、又は取得見込み者

応募期限: 2002年9月30日(月)必着

問い合わせ: 統計数理研究所

管理部庶務課人事係

TEL 03-5421-8707 FAX 03-3443-3552

詳細: <http://www.ism.ac.jp/>